

THE VISUAL ENCYCLOPEDIA OF SCIENCE FICTION

SF百科図鑑

編＝ブライアン・アッシュ 日本語版監修＝山野浩一

アイザック・アシモフ ポール・アンダースン／A・E・ヴァン・ヴォート ジャック・ウィリアムスン ブライアン・
W・オールディス アーサー・C・クラーク／ジョセフィヌ・サクストン／ロバート・シェクリイ レスター・デル・
リイ／ラリー・ニーヴン／J・G・バラード／ハリー・ハリスン／ケン・バルマー／フィリップ・ホセ・ファーマー／
ジョン・ブラナー／フレデリック・ポール／ジェイムズ・ホワイット／フリッツ・ライバー／キース・ロバーツ



SF百科圖鑑

The Visual Encyclopedia
of Science Fiction

The Visual Encyclopedia of Science Fiction
Edited by Brian Ash
Copyright © 1977 Pan Books Ltd, Cavaye Place,
London
Japanese Copyright © 1978
Japanese translation right arranged with Pan Books
Ltd, through Tuttle-Mori Co., Inc., Tokyo

SF百科図鑑

編者——ブライアン・アッシュ

監訳者——山野浩一◎

印刷——1978年11月25日

発行——1978年11月30日

装幀——ケン・ブランニングルーム

発行者——辻信太郎

発行所——株式会社サンリオ

東京都品川区西五反田7の22の17

TOCビル5F

電話——03(494)5353

印刷・製本——凸版印刷株式会社

定価 1200.-

SF百科図鑑

編＝ブライアン・アッシュ 日本語版監修＝山野浩一

株式会社サンリオ

SF百科圖鑑

The Visual Encyclopedia
of Science Fiction

SF百科図鑑

	CHECKLIST (チェックリスト)	9
01	PROGRAM (プログラム)	13
02	THEMATICS (テーマ集成) / イントロダクションの著者	
02.01	宇宙船と星間飛行 / ボール・アンダーソン	76
02.02	探検と移民 / ジャック・ウィリアムスン	86
02.03	生物と環境 / ジェイムズ・ホワイト	98
02.04	戦争と兵器 / ハリイ・ハリスン	108
02.05	銀河帝国 / レスター・デル・リイ	118
02.06	未来ともう一つの歴史 / ブライアン・オールディス	124
02.07	ユートピアと悪夢 / ジョン・ブラナー	132
02.08	破滅と終末 / J・G・バラード	138
02.09	ロスト・ワールドとバラレル・ワールド / ロバート・シェクリイ	145
02.10	時間とN次元 / フリッツ・ライバー	152
02.11	テクノロジーと技術製品 / ケネス・バルマー	162
02.12	都市と文明 / フレデリック・ボール	172
02.13	ロボットとアンドロイド / アイザック・アジモフ	180
02.14	コンピューターとサイバネティックス / アーサー・C・クラーク	189
02.15	ミュータントと共生体 / ジョセフィヌ・サクストン	198
02.16	テレパシイ、サイオニクス、ESP / ラリイ・ニーヴン	212
02.17	セックスとタブー / キース・ロバーツ	220
02.18	宗教と神話 / フィリップ・ホセ・ファーマー	230
02.19	イナー・スペース / A・E・ヴァン・ヴォート	245
03	DEEP PROBES (探求)	
03.01	接点と断面	256
03.02	文学としてのSF	265
03.03	受け継がれる発想	271
04	FANDOM AND MEDIA (ファンダムとメディア)	
04.01	ファンダム	280
04.02	SFアート	294
04.03	映画におけるSF	300
04.04	テレビにおけるSF	308
04.05	SF雑誌	312
04.06	単行本とアンソロジー	320
04.07	少年雑誌とコミックス	328
04.08	評論と講座	335
04.09	周辺の諸宗派	339
	参考文献	349
	インデックス	373
	日本版インデックス	383

BRIEFING



梗概

この百科ガイドは世界中の寄稿家の助力によって編集された。いわば真の国際協力の成果である。加えて本文にも登場するような数々の作品を書かれた著名なSF作家諸氏、ファングループの主宰者や研究家諸氏、更にまた、同様の関心を寄せられた多くの人々、そうした各人が本書の共同製作にあたって各パートで大活躍をしていただいている。まずはこれら全ての人々に謝意を表さねばならない。

この総序文において、SFがこの50年間にいかに文学としての可能性を切り開いてきたかという大展望をあえて述べる必要もないものと思う。SF入門者にもこれからのページで自明のこととなっていくはずだ。SF愛読者にはすでに御存知の事柄も多いかと思うが、それもまた一層の楽しみとなるものと思う。古くからのSFファンなら、特に関心を抱かれている箇所があるだろうし、他にも様々な利用法があることだろう。

つまり全ての人々に何かがあるはずだ。これだけの規模の編者はSF界において類例をみないものであり、その意図は正しく画期的というべきものである。ただ、いかに複雑な内容を盛り込んだとしても、高々一冊の本としてまとめられたものならば完璧といえるものではないことはSFに通じた読者には御理解いただだけよう。確かにこうした発展期にあるジャンルにおいて、決定版を生み出すことは不可能といわねばならない。サイエンス・フィクションは最先端において常に発展し続けているものだ。それを閉ざされた文学としてとらえようとすれば、SFと周辺文学の双方に様々な誤解を生むことになる。優れたSFの重要な価値はSFの境界線を伝統的小説の領域からはるか離れたところまで拡大していくことにある。この序文ではそうした声明を詳述するだけの空間はない。読者諸氏がこの主張に対する充分な論拠を本文中に見出していただけるものと信じる。もし編者の個人的な考え方を御所望であれば“Deep Probes”を御一読いただければ幸いである。

“Thematics”のセクションには世界の一流作家による様々な見解が述べられている。これは極めて多種多様なものであるゆえに、それぞれの作家のSFとかわるに至った動機をうかがわせるものといえよ

う。“Deep Probes”のセクションには更に論議が引き継がれ、それぞれ筆者による主張が述べられている。

本書は参考資料として使えるよう、形式的にならず独断的にもならないよう心がけ、SFにおいて重要な意味を持つアイデアというものの個々の扱われ方や、アイデアの異種受精によって生み出されていくものの全体像を少しでも伝えるよう試みた。本書は忘れられた書棚でほこりにまみれて日々を過し、そのまま終わってしまうようなものではまずないと思うし、提供される必要のある情報の類は大部分、簡明に、事実にもとづいて述べられているはずだ。

目次にはこのガイドがいかなる内容が示されている。作家の経歴などを扱わなかったのは、この種の優れた著作がすでに存在しており、この分野の必要な情報は全て伝えられているからだ。簡単に堅い内容のものから列記すると、Donald・タックの **The Encyclopedia of Science Fiction and Fantasy** 「SFとファンタジイの百科事典」、少しくだけてロバート・レジナルドの **Stella Nova: Contemporary Science Fiction Authors** 「ステラ・ノヴァ：現代のSF作家たち」、そして本書の編者自身のポピュラーだが厳選された内容の **Who's Who in Science Fiction** 「SF人名録」といったものがある。これらの現在刊行中の図書には作家の経歴や著作背景に関するシリアスな研究対象の大部分が扱われている。

巻末の作家と画家のインデックスには著作と短篇集の表題も加わっている。映画・テレビ番組・コミックス、およびその著作者に関しては04の **Fandom and Media** の一項目として扱った。雑誌とその出版社に関する情報は01の **Program** に年度別に記されており、また04、05の項目には更に論述が加えられている。

さて、こんなところだろう。ロバート・A・ハインラインをはじめ、多くの作家がいうような20世紀における唯一の価値ある文学として、この魅力的な世界に関する知識と教養を身につけようとする人々の全てが、本書によってその向学心と興味を末長く保ち続けていただけることを編者および著者一同、切に願うものである。

(山野浩一訳)

日本語版序文

編者のブライアン・アッシュ自身が述べているように、これは全く画期的な本だ。

必ずしも名作を大系だてて論じているわけでもなく、優れたイラストレイションを集大成しているわけでもない。いわばSFの評価の権威として役立つ本とはいえないかもしれない。しかし、おそらくSFの全体像をこれだけ明確にとらえた出版物は他に存在しないのではないかと思う。

SFには今世紀最高の名作と呼ぶべきものから、殆んど文学に属し得ないような存在性の低いものまで混然と含まれており、悪臭と芳香を同時に放ち、最も知的な小説といえはSFであり、最も低俗な小説といえはSFであるというような一大カオスを形成しているのがこのジャンルの特徴である。本書にはそうしたSFの諸要素が複雑にからみ合って扱われている。正に「百科図鑑」であり、ここにSFの正体をとらえることができるという総括の書であろう。

SF史の主要な作品は大部分この本のどこかで扱われていて、原題や著作年、作品の内容までが簡単にわかるようになっており、それらの作品の関連作品についても述べられている。またSFのテーマやアイデアを要領よく分類しており、それぞれのテーマの作品を読むことでその方面の思考を多様楽しむことができるはずだ。

同時に各セクションは独立したエッセイとしても読めるようになっており、なかには優れた評論としての価値の高いものもいくつかあるようだ。各セクションの著作者の名は伏せられていて、それぞれにSF観が異っており、しかも大部分は主体的な理論で貫かれているので、SFに対する様々な方角からのアプローチをとらえることができるだ

う。Thematicsの各セクションの作家による序文も、短いゆえに各作家の個性がよく発揮されている。

本書を最初にみた時に感じたことは、この本をSFに無知な人に翻訳されてはかなわないという、SFファンなら誰でも示すような素朴な反応だった。そしてその反応が、本書の翻訳にとり組もうという衝動を生み、いつかこの大冊の端にかじりついていた。'76年までの作品を扱ったこれだけの大冊の図書が'77年に出版されているというのも驚くべきことだが、それを'78年に翻訳出版するというのも異例のスピードではないかと思う。実際に翻訳を分担した山田和子、野口幸夫、大和田始、国領昭彦の四氏にはかなり無理なスケジュールをこなしてもらったし、サンリオの佐藤守彦氏、野崎正幸氏を始め、レイアウトや校正関係の諸氏にも御無理をお願いした。また、日本での出版物の調査や内容の考証に関しては「SFマガジン」「奇想天外」「季刊NW-SF」「幻想と怪奇」などの各誌や単行本に発表された野田昌宏、伊藤典夫、荒俣宏、安田均などの各氏の評論や解説を参考にさせていただいたし、沼野充義氏、デイヴィッド・ルイス氏には様々な御教示を受けた。そして、石原藤夫氏編の「SFマガジン・インデックス」と「SF図書解説目録」の正統篇には特にお世話になった。他にも国会図書館の図書カードなど、役立たせていただいたものは限りなく、それら全ての人々に謝意を表したい。

1978年8月1日

山野 浩一

凡例

1 翻訳方針

翻訳にあたっては当然のことながら、原著に忠実に、原著の意図を完全に生かせるように心がけた。イラストレイションは縮小、拡大したものもあるが、省略や追加は全く行っていない。記事や文章に関しても省略はせず、アメリカやイギリスのファンダムに関する記述のような日本のSFファンにはさほど関心のなさそうなものも、全て翻訳した。少なくともアメリカファンダムの気遣いじみた状況を知ること、SFの育った土壌を知る上でそれなりの役割を果たすものだろうと思う。

英語圏のSFに関してはほぼ完璧に扱われているが、ソ連、フランス、ドイツ、北欧、ポーランドなどの国々の重要なSF作品に関する記述は貧弱で、日本のSFに関する解説とともに付け加えたいという誘惑にかられたが、原著の意図を損う可能性があるため、こうした付加は全く行わず、日本での翻訳作品に関する情報と、各SF賞の'77年の受賞作だけを翻訳での追記とした。翻訳作品に関して書き加えたのは、本書のガイドとしての意図にそったものであり、これを付け加えることで本書の利用価値は大きくなるものと信じる。

翻訳作品のリストが書かれている場所に原著では参考文献が並べられていたが、これは日本版では巻末にまとめて扱った。

2 記号・略号など

原著では短篇を“ ”でくくり、長篇はイタリックで書かれているが、日本版では短篇に★のマークを付けて統一した。短篇と長篇の区別はもともとあいまいなものであり、どちらともいえないような作品も多いが、翻訳にあたっては全面的に原著に従い、ミスプリではないかと怪しまれるものも原著通りの区分で表記した。短篇をもとにして同じ題名で長篇化された作品は原著でも混同して扱われているが、日本版でも長篇だけが翻訳されているというような場合の短篇に関する記述も翻訳のある作品という扱いで統一した。ただ、「結晶世界」と「イルミネイテッド・マン」のような単に原型となっただけの作品は別作品として扱っている。

「 」でくくったものは訳題名か、雑誌やファンジンの題名である。

ゴチック(太字)で書かれているものは、日本語の場合は翻訳作品の題名で、英語の場合は未訳作品の原題である。翻訳のある作品はゴチックで日本語題名を書き、そののちに原題が書かれており、未訳作品はゴチックで原題が書かれ、そののちに仮の訳題が書かれている。

➡のマークは訳注で、原著にないものを追記した場合は必ずこのマークがつけられている。

[] でくくった部分は翻訳作品に関する情報で、訳者、出版社、掲載雑誌や書籍の表題が書かれている。

3 訳題の表記

日本で翻訳されている作品は抄訳、リライト、悪訳を問わず、調べのつく限りその訳題を作品の表題として扱った。また、先にも述べたように短篇をもとにした長篇が訳されている場合の短篇も長篇の訳題があててあり、長篇の一部となった短篇の場合は、その短篇に概当する章の題名があるものは章の題名を使い、長篇に吸収されてしまっているものは長篇の題名を使っている。このため短篇を示す★マークがついて長篇題名が書かれている場合もあるが、その大部分は原型か部分となるものと認識していただきたい。

訳題があるかどうかに関しては、かなり努力して調査したが、科学雑誌などに訳された科学エッセイなどは調査が困難であり、同人誌などに訳された作品も未訳扱いとなっている。また'78年6月以後に翻訳されたものは未訳となっているものも多い。戦前の翻訳作品にも調べのつかなかったものがありそう。

訳題が幾つもある場合題名が異なっている場合には一つの題名に統一したが、その選び方は(a)入手可能なもの(b)翻訳のよいもの(c)同じシリーズのそろっているもの(d)訳題が原題に近いもの——といった条件のより多くを充たしているものを選ぶようにした。

翻訳のない作品にも全て訳題をつけたが、これはあくまで仮のものであり、全ての作品の内容を調べて訳題を作ったわけではないので、

例えばヴィーナスを金星とするか美女とするかというような点で誤りがあるかもしれない。題名の意味を誤さなければ文意の通じないところもあるため全ての題名の訳題を作成したわけだが、そのために逆に内容が誤解されるところもあり得るわけで、その場合はお許し願うより他はない。怪しげな題名は仮名書きに直しただけというものもかなりある。

4 付記の記入方法

本文中に登場する著作で翻訳のあるものを全て『付記』に列記した。短篇には★印が付き、最初に訳題、〔 〕内に訳者と出版社、短篇の場合は雑誌名、掲載書が記入され、続いて原題、著作年、作者名の順で、Program の表記も著作年が省略されるだけでほぼ同じである。Program では初出の人名のスペルを表示した。短篇で、短篇集の表題作となっているものは掲載書名が略されている。’78年6月以後に出版予告などで近刊のほぼ確実なものも記載した。

雑誌の掲載誌が「SFマガジン」「季刊NW-SF」の場合は出版社名を省略したが、「SFマガジン」は早川書房、「季刊NW-SF」はNW-SF社の刊行誌である。「奇想天外」「幻想と怪奇」は出版社が変更されているので、出版社名を記載している。

出版社名で、東京創元社と東京創元新社は事実上同一出版社であるため、東京創元社の表記に統一した。

雑誌名の次の数字は掲載号の年度と月で、単に一つの数字だけが書かれている場合は通算号数である。

5 人名、雑誌名などの仮名表記の方法

西洋の人名や地名を日本文字に直す場合、一度発音を想定してから日本文字に直すため様の表記が困難となる。発音は原語圏ですら幾つも存在しているからであり、それを仮名に直す方法も幾つも存在するからである。

アシモフとアジモフ、ラインスターとレンスター、ヴォクトとヴォート、ディ・キャンプとド・キャンプ、ベルヌとヴェルヌ、ポーとポオ、などすでに日本の出版界に二つ以上の名で知られている作家も多い。本来はいかに間違った表記であろうと、最初の表記に全ての翻訳が追従すべきものであろうが、実際には出版社が異なると別の表記が出てくる場合が多く、おそらくこうした問題は永久に解決されることはないだろう。本書ではともかく一つの表記に統一し、ラインスターの名で出版されている本もレンスター作というように改められている。先に示した例では全て後の表記が本書で採用したものである。既訳のある作家の名はできるだけその既訳作品で使われた名を採用したが、これも全てではなく、本書の表記基準に従って直したものもある。また、既訳の表記に従ったため、同じスペルで同じ発音のものを別の読み方をしている場合もある。

翻訳作品のない作家や、翻訳作品があっても殆んど前例とならない程度のものの場合、本書では一定の基準で表記するよう心がけた。これは雑誌名などの仮名表記にも適応されている。参考までにその基準を述べておくと(a)普通に読んで問題のない場合はそのまま表記する。(b)極力英語方言的表記はさけて、同人物がドイツやフランスへ移住しても通じるよう国際的な表記を心がける。つまりiはアイと読まずイと読み、aはエイと読まず、アと読む。ただし、だか

らとって翻訳のある同名人物との別表記はさけて、一応日本でこれまでに通用している表記の大きな改革は行わなかった。将来はエイヴラム・デイヴィッドスンがアヴラム・ダヴィッドソンと表記されることを望みたいという程度の希望は述べておきたい。こうすれば同名のドイツ人もイタリア人も同じ表記ができるはずで、今後世界中に様々な語源の人名の人々が居住するようになっても対応できるはずで、もし英語で喋る場合にはエイヴラムに翻訳して話せばいいわけである。(c)仮名表記はあくまで日本語であり、翻訳した言葉であるから、日本語として無理のない表記を心がける。つまりソク音や音引はできるだけ少くし、ヴ以外の日本語にない文字は使わない。(d)原語のスペルを再現しやすい表記を心がけ、異なったスペルの名を判別しやすくする。vはヴを使いbはブを使うとか、ほぼ発音しない子音もできるだけ表記に加えるという要領。(e)できるだけ語源にさかのぼり、フランス系の人名はできるだけフランス語に近く、ドイツ系の人名はできるだけドイツ語の表記に近づける。これは一致させるのが望ましいが、急激な改変をさけて、少しずつ国際的な表記にしようというものである。

こうした基準をフランス語やドイツ語でも一貫して実用化されれば混乱は少くなると思う。

雑誌名や出版社名につけられた定冠詞は省略し、複数のSも省略して仮名表記しているものもある。この方面でも少し不統一のものがあり、例えばフューチャーと表記しているものが、「キャプテン・フューチャー」に限り、この表記で多くの翻訳が為されているので、フューチャーをそのまま使っている。

雑誌名はマンスリー、ウィークリーなどを月刊、週刊などと訳した以外は大部分原文の仮名表記に統一した。ファンジンやファンクラブの名は一部訳している。サイエンス・フィクションは大部分SFの略称で表記した。

6 インデックス

巻頭のチェックリストは翻訳した言葉によるリストとし、同じ用語を幾つにも訳している場合は、その訳語を列記した。

巻末の人名と書名のインデックスは、原著の英語によるインデックスと、翻訳作品の日本語によるインデックスを併載した。未訳作品は英語インデックスで、翻訳作品は日本語インデックスで調べられるはずである。

7 その他

著作年ははっきりしないものがあり、原著でも統一されていない。翻訳は全て原著に従ったため、Programと本文とで異なった年号が示されているものがある。

英語圏以外の作品は原著では原語で示されているものと英語訳題で示されているものがあり、翻訳では原題が判明しているものはできるだけ原語に戻し、例外的に調べのつかなかったものを英語で表記している。

英国とアメリカで表題の異なった作品があり、これも必ずしも原著で一貫していないが全て原著に従っている。

同様に何度も改題されている作品も原著の表記に従っている。

CHECKLIST

(チェックリスト)

S F用語のすべて——純然たる空想用語もあれば、現在科学用語として実際に使われているものもある——を以下にアイウエオ順に並べた。
()の中には用語説明と参照すべき関連項目が記入されており、関連項目はcfのマークののちに列記されている。
⇒印が付いているものは同義語や他の項目に含まれるような用語の場合に⇒以下の項目で引いていただくためのもの。
関連項目と同義語の記入は日本版でより便利のように作成したものである。
ページ数の表記は原著に従ったが、必ずしもその用語が出てくるとは限らず、およそ似た内容が述べられているだけという場合もある。
アルファベットを使った用語は、アルファベットの英語読みをそのまま日本語のアイウエオ表記にあてはめて配列した。

あ

新しい氷河期 (cf 異変) : 141
アトランティス (沈んだ大陸の神話。cf シェイヴァー・ミステリー) : 147 148 219 242 274
アルタネイティブ・ワールド⇒もう一つの世界
アンチユートピア⇒ディストピア
アンドロイド (化学合成の肉体をもつロボット。cf ヒューマノイド・ロボット ロボット ゴレム) : 116 169 180 188 194 222 263
安楽死 (その未来像、自発的なものと強制的なものがある) : 136 165 222

い

E S P (超常的な知覚能力) ⇒サイオニクス
イオン駆動⇒宇宙航法
医学⇒未来の医学
生きている神話 (cf 伝説と神話 シェイヴァー・ミステリー ゴレム ゴブリン 人狼現象 吸血鬼 幽霊) : 99-100 241-244
意識コントロール (行動主義心理学で、思想を植えつけ、洗脳すること。cf ディストピア サイオニクス) : 136 175 263 268 304
異次元⇒次元
異星人による戦争 (対人類、または異星人同士) : 109 116 121 141 142 195-196
異星人の侵略 (主として地球に対するもの。cf 地球外生命 UFO) : 77 125 141-142 149 190 210 250 261 272 302 303 308
異星人のセックス (cf 地球外生命 セックス) : 103 225-226
異星人の武器 (cf 究極兵器) : 108 113 141 258
異星人のミュータント (cf ミュータント 地球外生命) : 201
異星の技術製品 : 162 171 172
異星の植物 (cf 地球外生命) : 89 96 99 100 101 103 182 226
異星の動物 (cf 地球外生命) : 89 90 99-100 101 103 182
異星の文明 : 100 105 177-179
異星のロボット (cf ロボット) : 113 186-187
遺伝工学 (遺伝子のコードを操作して新しい種類、もしくは改良された種類の生物をつくりだすこと。cf クローン 優生学 分子生物学 パントロビイ ミュータント) : 89 120 136

210-211 240 261
イナー・スペース (心理学の領域——外界認識と存在感喪失と疎外の小説。cf ニュー・ウェーブ 地下世界) : 245-254 305
異変 (自然のものもあれば、人類や異星人が原因となることもある。cf 旱魃 洪水 昆虫の脅威 人為的災害 災厄後の状況 放射能による突然変異) : 83 95 120 121 125 138-144 147 158 248 265 266 268 271
隕石⇒宇宙の衝突
引力⇒重力

う

ヴァンパイア⇒吸血鬼
ビデオフォン (テレビ電話。cf テレビ) : 167
ワールド (人間の手の動きを真似る機械装置) : 169
動く道路 (歩道や道路全体がトラヴェレイター原理にもとづいて動く。cf 未来の輸送方式) : 164 173 175 258
宇宙工学 (惑星などの天体を移動させる。cf 宇宙航法 ロケット 宇宙船 ダイソン球 ブラック・ホール 鉱山採掘 月植民地 植民地テクノロジー 通信衛星 重力) : 84 85 171
宇宙航法 (宇宙船の推進方式。次のようなものがある。cf 宇宙船 ロケット 世代宇宙船 標的星システム スペース・ワープ 未来の輸送方式 UFO)
R : 77
イオン駆動 : 81
FTL (超光速。cf タキオン通信) : 78 81 82 83 118 122 153 163 261
原子波動ジェット : 84
原子力推進 (cf 原子力) : 78 81
光子ロケット : 84
スピディジイ : 84
大砲式射上げ : 77 163 300
太陽帆船 (cf 太陽エネルギー) : 82
ディーン・ドライブ : 84
トーチ・シップ : 164
ハイパースペース・オーヴァードライブ (cf スペース・ワープ ブラック・ホール 中性子星) : 82 83 85 164
反重力装置 (cf 重力) : 77 84 88 89 112 143 176
プラズマ駆動 : 81
膨張推進 : 116

無償性航法 : 82
ラム・ジェット推進 : 82 84 164
宇宙植民地⇒植民の各項目 月植民地
宇宙⇒異星および異星人の各項目 地球外生命
宇宙ステーション : 170 187
宇宙精神 (宇宙空間に存在する肉体的な知性。cf 統合的な意識) : 209
宇宙船 (cf ロケット 宇宙航法 世代宇宙船 未来の輸送方式 UFO) : 76-86 88 95 141 145 153 160 179 187 188 195 196 207 208 221 258 271
宇宙探検 : 86-98
宇宙の観察者⇒天の観察者
宇宙のコロニー (cf 植民地テクノロジー 植民惑星の文明) : 77 81 86-98 170-172 181
宇宙の衝突 : 91 121 138 139 146
宇宙文明⇒銀河帝国 植民惑星の文明 異星の文明 星間貿易 宇宙工学

え

エアーカー⇒空中カー
疫病 (cf 未来の医学) : 134 140 205
S Fコンヴェンション (cf ファン活動) : 285-293
S F賞 (cf ファン活動) : 287-292 297 299 308 327
エスパー (E S P能力者) ⇒サイオニクス
エネルギー⇒未来のエネルギー源 力場
エネルギー生物・ガス状生物 (cf 異星の動物 異星の植物) : 88 90 92 104 119
エネルギー転送⇒動力転送
エントロピー (熱力学の第二法則によればエネルギーの拡散した状態のことで、それ以上の運動は起こらないとされる) : 191 278

お

狼男⇒人狼現象
汚染 (cf 災厄後の状況 人為的災害 異変 自然保護) : 136 144 261 304
オートメーション機械 (cf 未来のテクノロジー 生産／消費) : 111 134 136 176 190 261 268

か

怪奇現象⇒幽霊 ポルターガイスト 人狼現象 吸

血鬼 魔法と魔術 サイオニクス シェイヴァー・ミステリー フォートの発想 UFO 改造人間⇒サイボーグ バイオニック・マン パン トロビイ 海底の世界 (cf 海底牧場) : 147 148 169 海底牧場 (cf 未来のテクノロジー) : 169 260 怪物・怪獣⇒ベム 快楽薬品 (cf 幻覚剤) : 136 核戦争 (cf 原子力 災厄後の状況 放射能による突然変異 ミュータント) : 114 115 120 141 143-144 175 176 182 190 202-205 227 232 258 304 ガス状生物⇒エネルギー生物 カニバリズム (cf 性的偏執) : 81-82 221 225 226 227 228 249 環境汚染⇒汚染 自然保護 旱魃 (cf 異変) : 140	原子力 (cf 核戦争 宇宙航法) : 114 131 143 166 181 193 195 202 209 258	こ	0 伝説と神話) : 317 342-346 時間透視 (cf 心霊投射 サイオニクス プレコグニション 予言 祖先の記憶 聖書 クレヴォヤンス) : 141 153-154 156 157 時間の静止 (時間の経過が停滞した状態) : 139 160 223 次元、四次元ほか (cf パラレル・ワールド タイム・パラドックス) : 104 106 149 150 160-162 191 自然災厄 (cf 異変) : 140-141 自然保護 (cf 汚染) : 136 254 シーティー (CT=contraterrene 反物質としてよく知られている) : 86 171-172 宗教 (現存の宗教の未来における展開と新しい信仰教義。cf 聖書 伝説と神話) : 89 136 143 177 185 187 221 230-239 240 266 終末⇒異変 重力 (cf 宇宙航法) : 83 84 95 170 201 食金属生命体 (cf 地球外生命 異星の動物 異星の植物) : 103-104 食人⇒カニバリズム 植物の脅威 (cf 突然変異) : 100 140 205 植民地テクノロジー (cf 月植民地 鉱山採掘) : 170-172 植民惑星の文明 (cf 月植民地) : 176-177 処女生殖 (女性が男性と結びつくことなしに妊娠する能力。cf 母系社会 クローン セックス) : 222 女性社会⇒母系社会 ジョンバル分岐点 (二つ以上の歴史の進路が分かれる時間の分岐点。cf もう一つの世界) : 124 130 131 人為的災害 (cf 汚染 異変) : 143-144 進化 (人類の種の継続への未来の展望) : 135 136 140 199 201 247 人工衛星⇒通信衛星 宇宙ステーション ダイソノ球 人口過密 (cf 産児制限と人口コントロール) : 135 136 137 144 149 173 175 176 246 259 261 268 人口コントロール⇒産児制限と人口コントロール 人口低落 : 137 人工冬眠 (未来への片道タイム・トラヴェル。通常、冷凍睡眠を用いる。cf 低温学 未来の医学) : 81 100 118 136 137 153 156 168 250 311 心理学テーマ⇒イナー・スペース 心理歴史学 (歴史学と心理学を結び合わせ、未来における危機的な状況を分析的に予測する) : 119 心霊投射 (精神が肉体を離れる。cf サイオニクス 時間透視 フォートの発想) : 213 216 人狼現象 (狼男——科学的あるいは想像的な解釈) : 228 243 340	
き	機械の知性 (知覚をもつコンピューターやロボットの究極的發展形態。cf コンピューター サイバネティックス ヒューマノイド・ロボット ロボット) : 189-198 263 気象コントロール : 111 169 究極兵器 (cf 未来の兵器) : 113 115 吸血鬼 (科学的な解釈と空想) : 232 243 301 共生 (二つ以上の個体間の相互依存の進んだ状態。生理的、知的、感情的なもの、あるいはそれらの複合したものもある。寄生をも含む。cf ゲシュタルト 性的関係(人間と異生物)) : 142 190 195 198 207-208 209 214 227 249 巨大生物 (自然のもの、薬品あるいは遺伝子操作によるもの) : 135 148-149 244 309 銀河精神⇒宇宙精神 銀河帝国と銀河文明 (人間のものとは異星人のもの) : 95 107 118-123 226 261 金属の突然変異 (cf ミュータント) : 206	昆虫社会的な意識 (高度に複雑化したゲシュタルト。多くの個体からなり、時にはテレパシイによって機能する。cf ゲシュタルト ディストピア) : 173 228 昆虫の脅威 (cf 異変) : 100 110 112 140 304 コンピューター (未来における利用と意識の目覚め。cf サイバネティックス 機械の知性 ロボット) : 81 136 169 173 189-192 194 198 209 215 223 226 237 238 246 249 250 258 259 263	さ	サイオニクス (超心理学——テレパシイやテレキネシス、読心や透視などESPの全領域にわたる。cf テレパシイ テレキネシス テレポーティション プレコグニション クレヴォヤンス 心霊投射 時間透視 精神交換 ヒエロニムス装置 意識コントロール 祖先の記憶) : 122 185 190 212-219 237 244 253 271 340 サイバネティックス (コンピューターと現在の諸科学との統合。cf コンピューター 機械の知性) : 189 193 196 198 259 サイボーグ (サイバネティク・オーガニズム——人間と機械の結合体。cf バイオニック・マン パントロビイ) : 168 180 193 194 196 197-198 209 240 催眠術 (cf ダイアネティックス) : 89 213 217 223 228 257 346 災厄⇒異変 災厄後の状況 (cf 異変 核戦争 放射能による突然変異 ミュータント 汚染 閉鎖都市) : 135 137 175 187 188 227 232 238 249 266 268 304 311 殺人光線 (cf 光線銃) : 109 110 111 112 産業ロボット⇒用途別ロボット 産児制限と人口コントロール (未来における方法と対応。cf 人口過密) : 136 137 221 222 262
く	空中カー (一人乗りの飛行機械、あるいは空中タクシー。cf 未来の輸送方式) : 164 173 クレヴォヤンス (目にみえない出来事を見る能力。cf サイオニクス 時間透視) : 212 216 クローン (大量に再生された遺伝的に同一の個体。cf 遺伝工学 分子生物学) : 168 210-211 222	催眠術 (cf ダイアネティックス) : 89 213 217 223 228 257 346 災厄⇒異変 災厄後の状況 (cf 異変 核戦争 放射能による突然変異 ミュータント 汚染 閉鎖都市) : 135 137 175 187 188 227 232 238 249 266 268 304 311 殺人光線 (cf 光線銃) : 109 110 111 112 産業ロボット⇒用途別ロボット 産児制限と人口コントロール (未来における方法と対応。cf 人口過密) : 136 137 221 222 262	し	頭脳保存 (脳を生きたまま保存すること。通常は肉体の死に際しての処置) : 193-196 スーパーマン⇒超人 スペース・オペラ (命知らずの冒険、すなわち“宇宙の西部劇”) : 77 78 82 83 85 95 116 119 163 214 278 302 304 308 309 332 スペース・ワープ (時空連続体の歪み。しばしば“虫喰い穴”と呼ばれる。cf 宇宙航法 ブラック・ホール 中性子星 星の門) : 85 149
け	珪素生物 (cf 地球外生命 異星の動物 異星の植物) : 101 ゲシュタルト (意識の集合体、あるいは集団の共生。cf 共生 統合的な意識 昆虫社会的な意識) : 191 209 215 結晶生命体 : 103 207 幻覚剤 (幻覚をひきおこす薬品やガス。cf 快楽薬品 現実の認識 イナー・スペース) : 218 249 現実の認識 (条件づけや幻覚からの目覚めをめぐる心理学的テーマ。cf イナー・スペース 幻覚剤) : 246 247 原子内部の世界 (原子の内部に一つの宇宙があって生命が存在するという概念) : 148	シェイヴァー・ミステリー (周辺の諸宗派の一つで、古代の地中族の神話をめぐるもの。cf アトランティス 地下世界 ロスト・ワールド UF	す	

パントロビイ（遺伝子工学などの技術によって人間の身体を変質させ、非地球的な惑星世界においても生存を可能にすること。cf 地球型への改造 遺伝工学 ミュータント）：210 反物質⇒シーティー ブラック・ホール 反ユートピア⇒ディストピア	母系社会（女性が男性より優勢であるか、男性を支配しているか、または男性なしで存立しているような未来の社会）：137 222 星の改造⇒地球型への改造 星の門（おそらくブラック・ホールと思われる宇宙の穴。そこを抜けると別の宇宙に入りこむことができると思われる。cf ブラック・ホール スペース・ワープ 中性子星）：85 ポルターガイスト（cf 幽霊）：243 339	cf 異星人の侵略 地球外生命 天の観察者 宇宙船 宇宙航法 シェイヴァー・ミステリー）：281 311 優生学（cf 遺伝工学 産児制限 ミュータント）：134 201 幽霊（科学的あるいは想像的な解釈。cf ポルターガイスト フォートの発想）：157 213 219 232 243 ユートピア（cf ディストピア）：122 132－137 150 193 196 262 265 267 268 277 夢の世界（cf ユートピア）：212 218
ひ	ま	よ
ヒエロニムス装置（人間のPsi能力との連携によって成分の有無を判定する装置。cf サイオニクス）：215 ヒューノイド・ロボット（cf ロボット アンドロイド 機械の知性）：183－186 標的星システム（星間航行の一方法。cf 宇宙航法）：83	魔法と魔術：136 212 234 243	用途別ロボット（機能本位のロボットで、通常は人間に似た形をとらない。cf ロボット）：181－183 妖精⇒ゴブリン 予言（cf プレコグニション 時間透視）：212 216 217 253 四次元⇒次元 予知⇒プレコグニション 予言
ふ	み	り
ファン活動（cf SF賞 SFコンヴェンション）：280－293 312 ファン用語（SFファンダム特有の表現。cf SF賞）：280－285 フォートの発想（説明のつかない現象に対する特異な解釈。cf 幽霊 サイオニクス）：142 246 339－341 不可視性：116 161 212 214 301 309 310 複製人間⇒クローン 不死（主として科学的な方法による不死性の獲得。cf 長命）：137 168 190 193 195 218 231 239－241 246 226 271 物質転送（物質や生物を電気信号に転換し、受信地点で再現すること。cf 動力転送）：85 122 161 164 165 ブラック・ホール（宇宙の現象の一つで、そこからは光が逃げだせない。現在まだ仮説段階にとどまっている。cf 中性子星 スペース・ワープ 星の門）：85 95 プレコグニション（時間循環理論にもとづく種族的記憶の表出――未来はすでに起こったことであるから知ることができるというもの。cf サイオニクス 予言 時間透視）：203 212 214 215 216－217 分子生物学（遺伝工学の技術と関連のある科学の一部門。cf 遺伝工学 未来の医学 クローン ミュータント）：206 260 265 文明⇒未来の文明 植民惑星の文明 異星の文明 生産／消費	ミクロコスモス⇒原子内部の世界 未来史（一定の歴史経路をたどって論理的に展開していくシリーズ作品）：124－128 261 未来戦争：109－117 147 182 190 191 192 258 261 302 320 330 未来都市（cf 閉鎖都市）：111 172－176 190 223 253 268 269 294 301 未来の医学（cf 臓器移植 頭脳保存 遺伝工学 分子生物学 人工冬眠 バイオニック・マン 意識コントロール 快楽薬品 疫病）：158 168－169 197 未来のエネルギー源：166 未来のテクノロジー（cf オートメイション機械 ロボット 宇宙船 ロケット 宇宙ステーション 宇宙航法 鉱山採掘 物質転送 動力転送 気象コントロール 海底牧場 動く道路 空中カー テレビ ヴィデオフォン ワールドー生産／消費）：162－172 未来の文明：173－177 未来の兵器（cf 究極兵器 力場 光線銃）：109－117 196 258 294 未来の輸送方式（cf ロケット 宇宙航法 物質転送 動力転送 動く道路 空中カー）：163－165 ミュータント（自然のものと、原爆の放射能や死の灰を溶びて誘発されるものがある。cf 放射能による突然変異 異星のミュータント 人狼現象 吸血鬼 超人 核戦争 災厄後の状況 遺伝工学 分子生物学）：119 198－206 213 266 302	力場（純粋な力によって作られる防御用の遮蔽膜で、目にみえないことが多い）：83 175 205 両性具有（cf セックス、性の各項目）：223
		れ
		冷凍睡眠⇒人工冬眠 低温学 レーザー⇒殺人光線 光線銃
		ろ
		ロケット（cf 宇宙船 宇宙航法 未来の輸送方式）：76 77 79 83 87 88 92 164 186 265 272 281 302 ロスト・ワールド（隠れた谷や山奥、海中、地中の文明。通常は地球上のものをいう。cf 地下世界 アトランティス シェイヴァー・ミステリー 鉄モグラ）：100 145－149 301－302 309 ロボット（cf 用途別ロボット ヒューマノイド・ロボット 異星のロボット アンドロイド ロボット文明 機械の知性 コンピューター 鉄モグラ）：81 92 108 113 146 169 175 180－188 189 191 194 197 198 213 237 238 253 263 266 271 301 308 309 328 ロボット文明（cf ロボット）：187－188
へ	め	
閉鎖都市（壁に囲まれた都市、天蓋におおわれた都市、地下都市など。cf 地下都市 未来都市）：136 137 144 170 173 175 別世界⇒もう一つの世界 次元 パラレル・ワールド ベム（BEM＝Bug-eyed Monsters）：98 変身⇒人狼現象 吸血鬼 精神交換 多重人格 ミュータント 超人 サイボーグ	メビウスの環（空間の歪みの仮説の簡略な説明材料。高速星間航法の可能性の根拠ともされる。cf 次元 スペース・ワープ）：85 160	
	も	
	もう一つの世界、およびもう一つの歴史（cf ジョンバール分岐点）：124 129－131 212	
	や	
	野蛮人テーマ：273－275 277	
ほ	ゆ	
放射能による突然変異（cf 核戦争 災厄後の状況 ミュータント 異変）：199 201 202－205 206	UFO（未確認飛行物体――空飛ぶ円盤などの現象。	

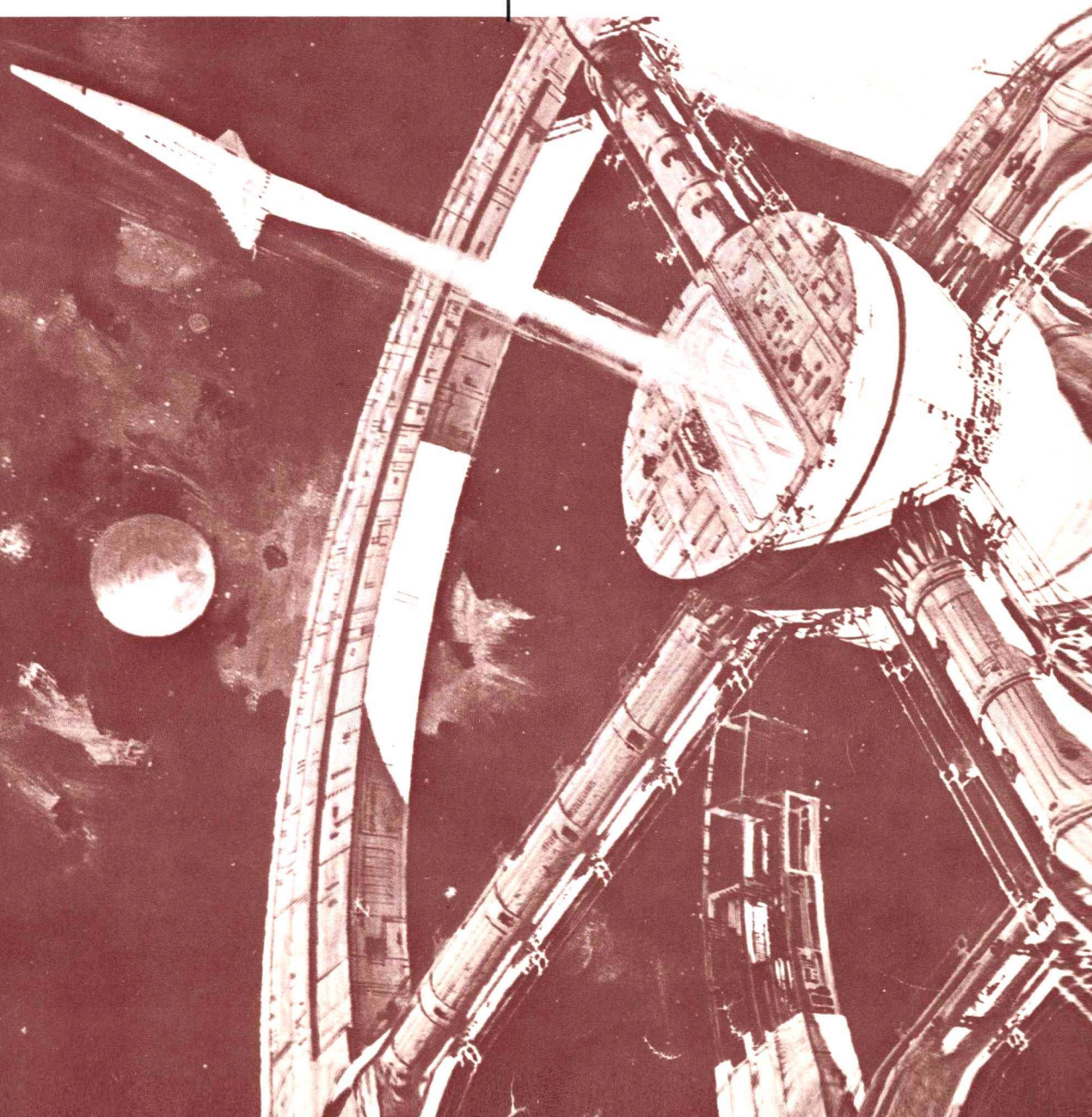
150 154 160 スライドウォーク⇒動く道路	あるいはS F的な状況設定で探求される不快な題材)：220 227-228	212 216 テレパシイ (思念投射によるコミュニケーション。cf サイオニクス 読心術)：134 194 196 198 201 203 209 212 213-215 216 225 253 テレビ (未来における活用と濫用 cf 広告 ヴィデオフォン 未来のテクノロジー)：88 167 175 250 259 302 テレポーテーション (精神力によって自己の身体やその他のものを遠くに転送する心的能力。cf サイオニクス テレキネシス)：212 215 216 340 電子頭脳⇒コンピュータ サイバネティックス 機械の知性 伝説と神話 (cf 聖書 洪水 宇宙の衝突 異変 アトランティス 宗教 生きている神話 魔法と魔術 幽霊 ゴブリン ゴレム 吸血鬼 人狼現象 シェイヴァー・ミステリー)：232 天の観察者 (宇宙から地球を見守っている存在。cf UFO)：122
せ	ち	と
星間貿易 (cf 銀河帝国 植民惑星の文明)：120-121 生産／消費 (経営者と労働者と消費者が相互依存している生産・サービス業の未来像。cf 広告 未来文明 未来のテクノロジー オートメイション機械)：136 175-176 181-182 249 261 聖書 (科学的解釈、および未来版。cf 宗教 伝説と神話)：241 242 精神交換 (二人以上の個性が心を交換すること。いいかえればそれぞれの心が不慣れな肉体を持つこと。cf サイオニクス)：212 217-218 性的関係 (人間と異生物)：221 225-226 性的偏執 (cf 同性愛 カニバリズム セックス)：221 222 223 225 227 228 性転換 (cf セックス 両性具有)：223 250 254 世代宇宙船 (目的地に到着するまでに乗員が幾世代もの誕生と死を繰返す恒星船。cf 宇宙船 宇宙航法)：81 176 セックス (人間の性。cf 同性愛 性転換 処女生殖 母系社会 両性具有 性的偏執 セックスの代用品)：136 209 210 220-225 239 249 セックスの代用品 (cf セックス)：188 222 前世の記憶⇒祖先の記憶 千里眼⇒クレヴオヤンス	地下世界 (cf 閉鎖都市 ロスト・ワールド シェイヴァー・ミステリー 鉄モグラ)：136 144 146 199 227 249 301 342-346 地下都市⇒閉鎖都市 地球外生命 (地球以外の宇宙の生物。通常“異星人”と呼ばれる。cf 異星人の各項目 エネルギー生物・ガス状生物 食金属生命体 珪素生物 UFO)：78 83 86 88 90 92 95 96 97 98-107 115 116 118-119 120 121 122 123 125 136 141-142 148 161 164 165 172 176 177-179 186-187 191 193 195 197 201 207 208 209 213 214 215 216 217 218 221 222 223 225-226 227 234 235 236 237 242 265 266 267 268 271 272 294 302 303 309 310 330 334 340 342-346 地球型への改造 (本来居住不能な惑星世界に総合的に地球に似た環境を創造すること。cf バントロビイ)：86 92 171 知性の向上 (自然な進歩、薬品あるいは遺伝子操作によるものなど。cf 超人)：202 203 205 207 208 212 223 237 244 247 250 309 中性子星 (非常に密度の高い収縮した恒星で、通常は地球の数百万倍の重力をもつ。cf ブラック・ホール)：86 95 超空間⇒宇宙航法 スペース・ワープ 超光速⇒宇宙航法 超心理学⇒サイオニクス 超人 (遺伝的に導きだされたものと、自然の突然変異とがある。cf 知性の向上 ミュータント 不死 バイオニック・マン)：78 135 197 201 202 214 219 244 268 271 273 333-335 超頭脳⇒知性の向上 超人 超能力⇒サイオニクス テレパシイ テレキネシス テレポーテーション クレヴオヤンス プレコグニション 心霊投射 読心術 時間透視 ミュータント・超人 魔法と魔術 ヒエロニムス装置 フォートの発想 長命 (cf 不死 人工冬眠)：84 122 210 239-241	統合的な意識 (人間あるいは異星人がつくりあげた知性。cf ゲシュタルト 宇宙精神)：244 透視⇒クレヴオヤンス 同性愛 (cf セックス、性の各項目 性的偏執)：210 222 223 227 249 透明人間⇒不可視性 動力転送 (光や電波などの電磁波によって純粋エネルギーを伝送すること。cf 物質転送 宇宙航法)：113 166 読心術 (cf サイオニクス テレパシイ)：202 212 213 都市 (未来)⇒閉鎖都市 未来都市 突然変異 (動物および植物。cf 放射能による突然変異 ミュータント 超人)：205-206 ドーム都市⇒閉鎖都市
そ		な
臓器移植 (cf 未来の医学 頭脳保存)：137 218 223 祖先の記憶 (前世の記憶。cf 時間透視 サイオニクス)：154 212 219 空飛ぶ円盤⇒U F O		に
た	つ	は
ダイアネティックス (一種の精神療法。S Fの周辺のカルトの一つ。cf 催眠術)：215 346-348 対距地球 (太陽の向こう側にある地球と双子の惑星)：130 ダイソン球 (一つの世界となるような巨大な人工衛星)：86 第二の地球⇒対距地球 タイム・トラヴェル (cf 人工冬眠 時間の静止)：83 84 121 124 130 131 152-159 187 199 215 216 222 223 227 228 234 235 250 253 254 271 309 タイム・パラドックス (タイム・トラヴェルの概念から生ずる知的パズル。cf 次元)：154 159 247 タイム・ワープ (時間の流れの乱れ。これによって人が未来や過去に送りこまれることがある)：120 129 131 153 157 太陽エネルギー (cf 宇宙航法)：166 タキオン通信 (超光速コミュニケーション装置。cf 宇宙航法)：85 多元宇宙⇒パラレル・ワールド 多重人格 (*ジーキルとハイド*病)：212 218-219 タブー (ジャンルの発展過程に存在した禁止事項、	通信衛星：167 191 259 月植民地 (cf 植民地テクノロジー 植民惑星の文明)：88 110 170 176 192 197	内宇宙⇒イナー・スペース ニュー・ウェーブ
	て	
ダイアネティックス (一種の精神療法。S Fの周辺のカルトの一つ。cf 催眠術)：215 346-348 対距地球 (太陽の向こう側にある地球と双子の惑星)：130 ダイソン球 (一つの世界となるような巨大な人工衛星)：86 第二の地球⇒対距地球 タイム・トラヴェル (cf 人工冬眠 時間の静止)：83 84 121 124 130 131 152-159 187 199 215 216 222 223 227 228 234 235 250 253 254 271 309 タイム・パラドックス (タイム・トラヴェルの概念から生ずる知的パズル。cf 次元)：154 159 247 タイム・ワープ (時間の流れの乱れ。これによって人が未来や過去に送りこまれることがある)：120 129 131 153 157 太陽エネルギー (cf 宇宙航法)：166 タキオン通信 (超光速コミュニケーション装置。cf 宇宙航法)：85 多元宇宙⇒パラレル・ワールド 多重人格 (*ジーキルとハイド*病)：212 218-219 タブー (ジャンルの発展過程に存在した禁止事項、	低温学 (超低温冷凍。cf 人工冬眠)：156 168 ディストピア (アンチユートピアやその他の抑圧的社会。cf ユートピア)：132 135-137 146 196 221 223 234 262 264 268 272 277 304 310 テクノロジー⇒未来のテクノロジー 鉄モグラ (地中に穴を掘って進む乗物。cf 地下世界)：114 146 164 テレキネシス (精神の力で物体を動かす能力。cf サイオニクス テレポーテーション)：209	バイオニック・マン (cf サイボーグ)：197 309 バイブル⇒聖書 破滅⇒異変 パラレル・ワールド (いわば地球の鏡像であり、地球と同じような生物が住んでいることが多い―但しわずかに変化していることもあれば、重大な相違のみられる場合もある。cf 次元)：145 149-152 反重力⇒宇宙航法 重力 播種理論 (人類の祖先は異星人によって地球へ、またおそらくは他の惑星へももたらされたとする仮説―その逆もありうる)：97 120

01

PROGRAM (プログラム)

この巻頭セクションの主な意図は大まかな基礎 SF 史を年表として再現しようというものだ。SF ジャンル全域におよぶ主要なできごとが即座に認識できるように年度順に記録し図表化されている。従って記載されたものは限定されているが——ともかくスペースの許される限りにおいて、著名な小説や雑誌に関する詳細、映画、テレビ番組、ファン活動、その他の重要な事柄の大部分が意図通り記録されているように思う。

構成にあたっては一様に図表化されるようこころがけており、形式として宇宙ロケットの飛行プログラムに準じて示されている。ファンダムは終始下段から支援する活動としての位置を占めている。記載事項に関する解説は次のページに示したとおりである。



Program は19世紀の初頭に始まり、最初の記載は1805年と
なっている。それ以前の「原SF」といわれる作品を扱うべ
きかどうかは論者によって意見の分かれるところかもしれな
い。だが、そうした作品は全て Thematics のセクションでも
とり上げられているものである。

現在の SF ジャンルに発達するまでの基礎が築かれた時代区分
に合わせて、Program は三つの段階に分割されている。「秒読
み」は19世紀を扱っており、1895年に H・G・ウェルズの最初
の長篇によって「打ち上げ」に突入するまでは大部分の物語が
地球上で展開されている。

その後の30年間に SF 作家は太陽系への冒険に出るが、それ
でもそれ以上遠くへ行くことは少なかった。本格的に読者が宇
宙空間に連れ出されるようになるのはパルプ雑誌の登場後であ
る。1926年に始まるこの第三段階は「そして宇宙空間に突入」
と名づけられており、ここから1976年までたどっていけること
になる。

図表の記載方法について簡単に説明しておかねばならない。
シンボル・マークのリストに示したものは1926年以後の至ると
ころで一貫して使われているものだ。雑誌掲載作品は作者名と
掲載号が参照できるようになっているはずだ。短篇には★印が
付けてあり、無印の長篇扱いとなっている作品——連載作品の
殆んど——にはのちに単行本化されなかったものも含まれてい
る。

SF 雑誌への作家のデビューの表示は、作家の処女作に限定
せず、他の分野で活躍してきた人の SF 界への初登場も含ませ
るようにした。その顕著な例として「ウィアード・テールズ」
誌の場合があるが、この雑誌は SF 開発工程経路図上の純粋な
SF 雑誌とは認められていないにもかかわらず、のちに SF 作
家として知られるようになった人のファンタジイ作品などが掲
載されている。そんな作品が古典として認められた場合、或い
は著名な作家の処女作となったような場合に限って「ウィアード
・テールズ」誌がとり上げられることになる。

作家によっては最初に売れた作品が出版社の都合で次の作品
に先を越され、年代順が逆転して登場していることもある。そ
んな場合も区別のついているものは整理し、処女作として扱っ
ている。

処女作の場合は個々の作家がデビューしたということだけで
も記載に値することだろうが、その後の作品に関しては内容に
応じてとり上げられることになる。続篇として書かれたものは
スペースの関係で僅しか扱っていないが、この原則は書籍や
映画、テレビの項目にも適用されている。単行本の項目は原則
的に最初から単行本として出版されたものだけが記載されてい
る。

雑誌の創刊とか合併とか誌名変更のリストでは、必ずしも表
紙の題名と扉の題名が一致しているとは限らないので扉に使わ
れている正式名を使うようにした。雑誌名は総タイトルを記載
しており、省略する場合も「アメーzing・ストーリーズ」を
「アメーzing」というようににまぎれない使い方をしている。
ただ「マガジン・オブ・ファンタジイ・アンド・サイエンス・
フィクション」は長すぎるので広く認められている「F&SF」と
いうイニシャル表記を使った。

雑誌出版社名は最も一般的なものを使い、変更があった場合
も、子会社で SF 雑誌が発行されていることになっているよう
な場合は特に明記していない。「終刊」の期日は雑誌（または
ファンジン）の最終号の日付けに合わせているのが普通である。
英米以外で再刊されている商業誌は扱っていない。

ファンダムの項では、ファン歴史の時代区分に関してジャッ
ク・スピアの1939年の評論 **Up to Now** 「回顧」を原典として
いることを明記しておきたい。スピアは「第一次ファンダム」
「第二次ファンダム」という具合に時代を名づけていった。の

ちにサム・モスコウィッツが **Immortal Storm** 「不滅の嵐」
という評論で別の方式を生み出し、「第一次ファン時代」という
ような名を与えている。モスコウィッツによる第一次はスピア
の第一次ファンダムより昔にさかのぼっているが、スピアもの
ちにこうした初期ファン活動を追認し、モスコウィッツの第一
次にあたるものとして「エコーファンダム」の名を与えた。

スピアの方式は Program にも記述されているようにモスコ
ウィッツのものよりも広く受け入れられていて、のちにロバート
・シルヴァーバーグが引き継ぎ「第六次ファンダム」までを
作った。エリオット・ワインスタインは「第十三次ファンダム」
までの順をつけたが、各区分にこれといった特徴が明示されて
いるわけではない。

新しい読者のためにプログラムに使われているファン用語の
一部を解説しておこう：

ブリッククリーク：ファン世界での派閥活動のようなもので、
自分たちの加入している様々な組織に対し、研究分野や活動方
針を自分たちの考える方向へ行かせること。つまり組織のあり
方や進路を変更させるための非公式な圧力団体の活動。

コンボジン：幾つかの独立したファンジンをまとめて一冊にし
た合本誌を示す用語。

コンヴェンション（コン）：一般にファン集会と定義されてお
り、a）事前に準備の整えられたものに限定する場合と、b）
事務的な集会までを含める場合がある。ファンダム全体におい
てこの定義への異論はみられないが、「史上初の本当のコンヴ
ェンション」がどれかという問題となると一つの会合に統一さ
れないまま論者の意見が分かれている。

ファンジン：アマチュア出版物かセミプロ出版物のことで、普
通雑誌形式をとっており——複写か謄写印刷が多いが、組織/
クラブに十分な資金がある場合とか、印刷所の無料提供を受け
た場合などは活版印刷となる。

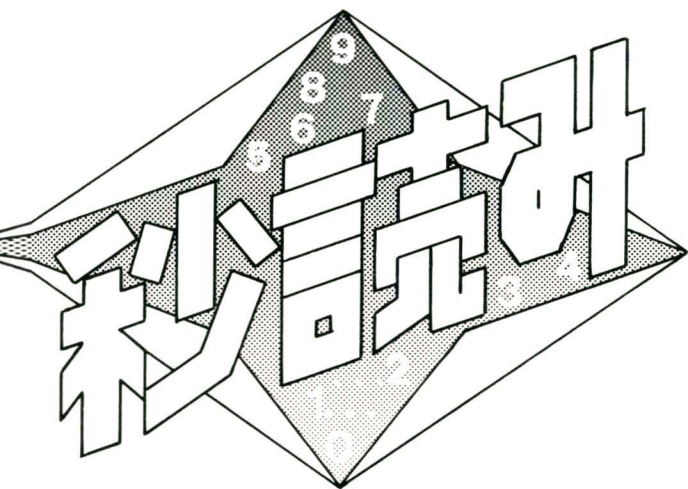
ガフィエイト：「完全に手を切ってしまうこと」の意——特に
ファンダムから足を洗う場合に使われるが、必ずしも永久的な
ものではない。

レターコル：「レター・コラム」の短縮形で——読者と作家の
交流地域として貴重な役割を果たしている。

プロジン：商業 SF 雑誌を示すファン用語で、アマチュア出版
物と対比する場合に使われる。

ここ数年間の活動に関してはファンの間の意見の対立によっ
て詳しい確かな記述を行うことが困難になっている。1950年以
後のファン歴史に関する著作は全くなく、ハリー・ワーナー・
ジュニアが1950年代と60年代初期を扱ったものを書いたが、本
書の印刷段階では発行されていない。ただ、初期に関しては充
分な根拠にもとづく確実な事柄が明らかになっており、広範囲
の記述が行なえたと思う。（山野浩一訳、一部日本版に合わ
せてリライト）

1805



- 1805 **Le Dernier Homme** 「最後の人間」ジャン＝バプティスト・クーサン・ド・グレンヴィユ (Jean-Baptiste Cousin de Grainville) 未来世界のロマンス。
- 1818 「フランケンシュタイン」(山本政喜訳・角川書店) Frankenstein メアリ・シェリー (Mary Shelley)



- 1827 **The Mummy! A Tale of the Twenty-Second Century** 「ミイラよ! 22世紀の物語」J. ウェブ (J. Webb)
- 1828 ジュール・ヴェルヌ、フランスのナントに生まれる。
- 1835 「ハンス・プファアルの無類の冒険」(小泉一郎訳・東京創元社「ボオ全集」) The Unparalleled Adventure of One Hans Pfaall エドガー・アラン・ポオ (Edgar Allan Poe)
- ★ **Moon Hoax** 「偽月世界観測記」リチャード・アダムス・ロック (Richard Adams Locke) フィクションを新聞記事として掲載したため騒ぎとなる
- 1838 「ナンタケット島出身のアーサー・ゴードン・ピムの物語」(大西尹明訳・「ボオ全集」) The Narrative of Arthur Gordon Pym's Adventures エドガー・アラン・ポオ
- 1844 ★ **The Artist of the Beautiful** 「美しい芸術家」ナサニエル・ホーソン (Nathaniel Hawthorne)
- ★ 「ラバチーニの娘」(橋本福夫訳・東京創元社「怪奇小説傑作集3」) Rappacini's Daughter ナサニエル・ホーソン
- ★ 「鋸山奇談」(小川和夫訳・「ボオ全集」) A Tale of the Ragged Mountains エドガー・アラン・ポオ
- ★ 「軽気球夢譚」(高橋正雄訳・「ボオ全集」) The Balloon Hoax エドガー・アラン・ポオ
- 1845 ★ 「ヴァルドマル氏の病症の真相」(小泉一郎訳・「ボオ全集」) The Facts in the Case of M. Valdemar エドガー・アラン・ポオ
- 1849 ★ 「メロンタ・タウタ」(高橋正雄訳・早川書房「世界のSF・古典篇」) Mellonta Tauta エドガー・アラン・ポオ

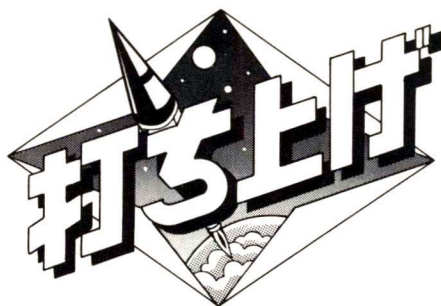
- 1855 ★ 「鐘楼」(寺田建比古・桂田重利訳・英宝社「魔の群島・バートルビイ」) The Bell-Tower ハーマン・メルヴィル (Herman Melville)
- 1858 ★ 「金剛石のレンズ」(稲葉明雄訳・「世界のSF・古典篇」) The Diamond Lens フィッツ＝ジェームズ・オブライエン (Fitz-James O'Brien)
- 1859 ★ 「ワンドースミス」(森美樹和訳・新人物往來社「怪奇幻想の文学V」) The Wondersmith フィッツ＝ジェームズ・オブライエン
- ★ 「あれは何だったか?」(橋本福夫訳・「怪奇小説傑作集3」) What Was It? A Mystery フィッツ＝ジェームズ・オブライエン
- 1863 「気球に於て五週間」(手塚伸一訳・集英社) Cinq Semaine en Ballon ジュール・ヴェルヌ (Jules Verne)
- 1864 ★ **How I Overcame My Gravity** 「我はいかにして重力を克服したか」フィッツ＝ジェームズ・オブライエン
- 「地底旅行」(加藤久訳・中央公論社) Voyage au Centre de la Terre ジュール・ヴェルヌ
- 1865 「月世界旅行」(鈴木力衛訳・集英社) De la Terre à la Lune ジュール・ヴェルヌ
- 1866 H・G・ウェルズ、イギリスのケント州ブルムレイに生まれる
- 1868 **The Steam Man of the Prairies** 「大草原の蒸気機関人間」エドワード・F・エリス (Edward F. Ellis)
- 1869 ★ **The Brick Moon** 「れんがの月」エドワード・エヴァレット・ヘイル (Edward Everett Hale)
- 1870 「月世界へ行く」(江口清訳・東京創元社) Autour de la Lune ジュール・ヴェルヌ
- 「海底二万リーグ」(村山啓夫訳・早川書房) Vingt Mille Lieues sous les Mers ジュール・ヴェルヌ



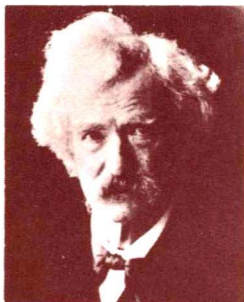
- 1871 **The Coming Race** 「来るべき種族」サー・エドワード・ブルワー＝リットン (Sir Edward Bulwer-Lytton)
- ★ **The Battle of Dorking** 「ドーキング戦争」サー・ジョージ・トムキンス・チェズニイ (Sir George Tomkyns Chesney)
- 1872 「エレホン (山脈を越えて)」(山本政喜訳・岩波書店) Erewhon サミュエル・バトラー (Samuel Butler)
- 1875 「神秘の島」(手塚伸一訳・集英社) L'Île Mystérieuse ジュール・ヴェルヌ
- 1876 **Frank Reade and His Steam Man of the Plains** 「フランク・リードと荒原の蒸気機関人間」ハリイ・エントン (Harry Enton) 同シリーズの始まり
- 1877 「彗星飛行」(久米稷訳・偕成社、少年向きリライト) Hector Servadac ジュール・ヴェルヌ
- 「黒いダイヤモンド」(新庄喜章訳・集英社) Les Indes Noires ジュール・ヴェルヌ
- 1878 **Oxygen och Aromasia** 「酸素と芳香」クラウス・ルンディン (Claes Lundin)
- 1879 「インド王妃の遺産」(中村真一郎訳・集英社) Les Cinq Cents Millions de la Bégum ジュール・ヴェルヌ
- Frank Reade Jr. and His Steam Wonder** 「フランク・リード二世と蒸気機関大冒険」ルイス・P・セナレンス (Louis P. Senarens) このシリーズを引き継ぐ

01. PROGRAM

1895



- 1880 **La Maison à Vapeur** 「蒸気の家」ジュール・ヴェルヌ
- 1884 「二次元の世界——平面の国の不思議な物語」〔高木茂男訳・講談社〕
Flatland: A Romance of Many Dimensions エドウィン・アボット (Edwin Abbott)
ヒューゴー・ガーンズバック、ルクセンブルグに生まれる
- 1886 「ジークル博士とハイド氏」〔田中西二郎訳・新潮社〕The Strange Case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde ロバート・ルイス・ステイヴンソン (Robert Louis Stevenson)
「征服者ロビュール」〔手塚伸一訳・集英社〕Robur le Conquérant
ジュール・ヴェルヌ
- 1887 **A Crystal Age** 「水晶の時代」W・H・ハドソン (W. H. Hudson)
La Guerre au Vingtième Siècle 「20世紀戦争」アルベール・ロビダ (Albert Robida)
- 1888 「顧りみれば」〔山本政喜訳・岩波書店〕Looking Backward 2000—1887 エドワード・ベラミー (Edward Bellamy)
- 1889 「アーサー王宮廷のヤンキー」〔小倉多加志訳・早川書房〕A Connecticut Yankee in King Arthur's Court マーク・トウェイン (Mark Twain)



- Urania** 「ユラニ」カミーユ・フラマリオン (Camille Flammarion)
Eine Reise nach Freiland 「フリーランドへの旅」テオドル・ヘルツカ (Theodor Hertzka)
- 1893 ★**The Advent of the Flying Man** 「空飛ぶ男出現す」H・G・ウェルズ (H. G. Wells) の処女作
★「すべったブレバート」〔窪田鎮夫訳・英宝社〕「ダイヤモンドをつくる男・盲人の国」A Slip Under the Microscope H・G・ウェルズ
Le Fin du Monde 「世界の終り」カミーユ・フラマリオン
- 1894 ★「イーピヨルニスの島」〔阿部知二訳・東京創元社〕『ウエルズSF傑作集1』Aepyornis Island H・G・ウェルズ
★「ダイヤモンド製造家」〔阿部知二訳・『ウエルズSF傑作集1』〕The Diamond Maker H・G・ウェルズ
★「めずらしい蘭の花が咲く」〔阿部知二訳・東京創元社〕『ウエルズSF傑作集2』The Flowering of the Strange Orchid H・G・ウェルズ
★「ダイナモの神」〔宇野利泰訳・早川書房〕『モロー博士の島』The Lord of the Dynamos H・G・ウェルズ
★「盗まれたバチルス」〔宇野利泰訳・早川書房〕『タイム・マシン』The Stolen Bacillus H・G・ウェルズ
A Journey in Other Worlds 「別世界への旅」ジョン・ジェイコブ・アスター (John Jacob Astor)
A Traveller from Altruria 「愛他主義国からの旅行者」ウィリアム・ディーン・ハウエルズ (William Dean Howells)
The Great War in England in 1897 「1897年の英国大戦争」ウィリアム・ル・キュー (William Le Queux)

- 1895 「タイム・マシン」〔阿部知二訳・『ウエルズSF傑作集1』〕The Time Machine H・G・ウェルズ
★「大空に夢をかけた男たち」〔石川年訳・角川書店〕『透明人間』The Argonauts of the Air H・G・ウェルズ
★**The Remarkable Case of Davidson's Eyes** 「デイヴィッドソンの眼の変異」H・G・ウェルズ



- 「動く人工島」〔三輪秀彦訳・東京創元社〕L'île à Hélice ジュール・ヴェルヌ
The Crack of Doom 「審判の雷鳴」ロバート・クロミー (Robert Cromie)
- 1896 「モロー博士の島」〔能島武文訳・角川書店〕The Island of Dr. Moreau H・G・ウェルズ
★「深海潜航」〔石川年訳・角川書店〕『タイム・マシン』In the Abyss H・G・ウェルズ
★「プラトナーの話」〔宇野利泰訳・早川書房〕『来たるべき世界の物語』The Plattner Story H・G・ウェルズ
★「赤むらさきのキノコ」〔阿部知二訳・『ウエルズSF傑作集2』〕The Purple Pileus H・G・ウェルズ
★「海を襲うもの」〔宇野利泰訳・『来たるべき世界の物語』〕The Sea Raiders H・G・ウェルズ
★「故エルヴシャム氏の物語」〔阿部知二訳・『ウエルズSF傑作集2』〕The Story of the Late Mr. Elvisham H・G・ウェルズ
★**Under the Knife** 「手術刀の下」H・G・ウェルズ
「悪魔の発明」〔太久保和郎訳・角川書店〕Face au Drapeau ジュール・ヴェルヌ
「アーゴシイ」Argosy誌、フランク・A・マンシイ (Frank A. Munsey) によって、全巻フィクションの最初の貴重なバルブマガジンに改まる。
- 1897 「透明人間」〔宇野利泰訳・東京創元社〕The Invisible Man H・G・ウェルズ
★「水晶の卵」〔阿部知二訳・『ウエルズSF傑作集1』〕The Crystal Egg H・G・ウェルズ
★「妖星」〔能島武文訳・角川書店〕『モロー博士の島』The Star H・G・ウェルズ
★「来たるべき世界の物語」〔宇野利泰訳・早川書房〕A Story of the Days to Come H・G・ウェルズ
★**A Story of the Stone Age** 「石器時代の物語」H・G・ウェルズ
「両惑星物語」〔松谷健二訳・早川書房〕Auf Zwei Planeten クルト・ラスヴィッツ (Kurd Lasswitz)